

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

楷書を学ぶ上で最も大切なことは明快な線を引くこと

ハネは広く  
ノの方向に変化

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

酒は天の美祿  
酒は百薬の長  
酒に十の徳あり

おか だ りゅう ほう 書  
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

同字変化をつけて  
そり合うように  
下をすぼめる  
中心線  
位置に注意

五	四	三
月	月	月
の	の	の
花	雨	風
を	が	と
咲		
か		
す		

おお たに せい じょう 書  
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★三月の：（書体Ⅱ行書）

イギリスのことわざ

イギリスの三月は風の月であり、四月は雨の月です。三月の冷たい風と四月のわか雨のおかげで五月の美しい花が咲く、という意味です。でもそこには、人生の移ろいの中で困難に耐えてこそ、その後訪れる喜びはひとしおである、という人生訓を読み取ることができます。

◆5月課題予告（楷書）

鹿を逐う者は

山を見ず

淮南子

★酒は：（書体Ⅱ楷書）

酒に関することわざは世界中に数え切れない程ありますが、その中から酒を称えることわざを三つ集めました。改めて意味を説明する必要もないと思いますが、確かに酒は、精神的にも肉体的にも人間にたくさんのお恵を与えてくれます。ただし、ゆめゆめ飲み過ぎることのないように…。

◆5月課題予告（行草または草書）

千軍は得易く

一将は求め難し

漢宮秋

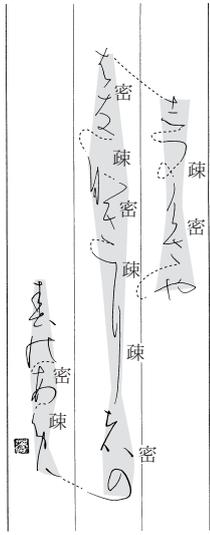
▼教範・書範Ⅱ行書

▼師範Ⅱ楷書

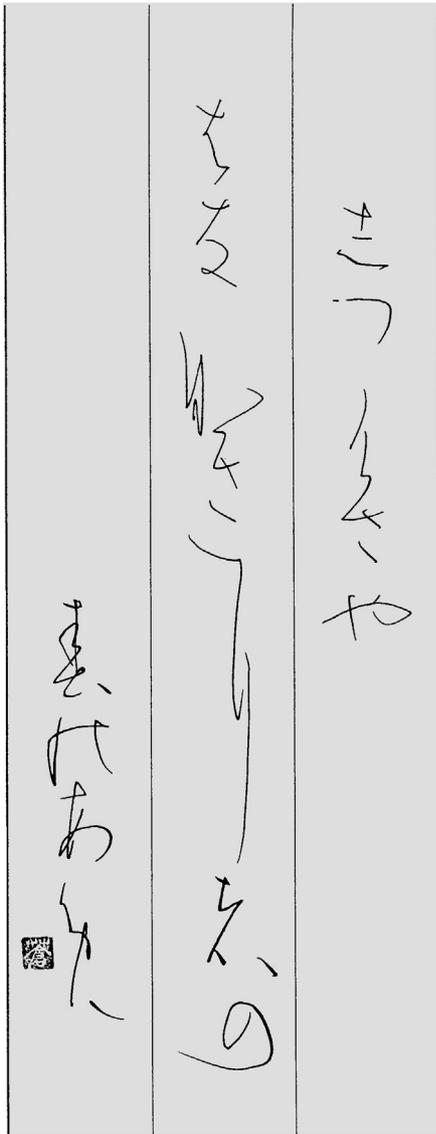
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



志つ介  
静さや花なき庭の春の雨

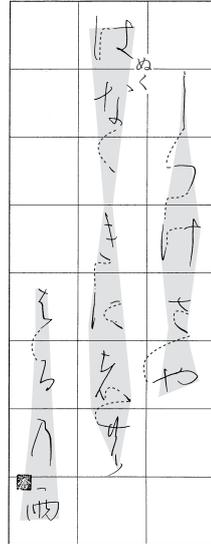


荻 田 蒼 仙 書

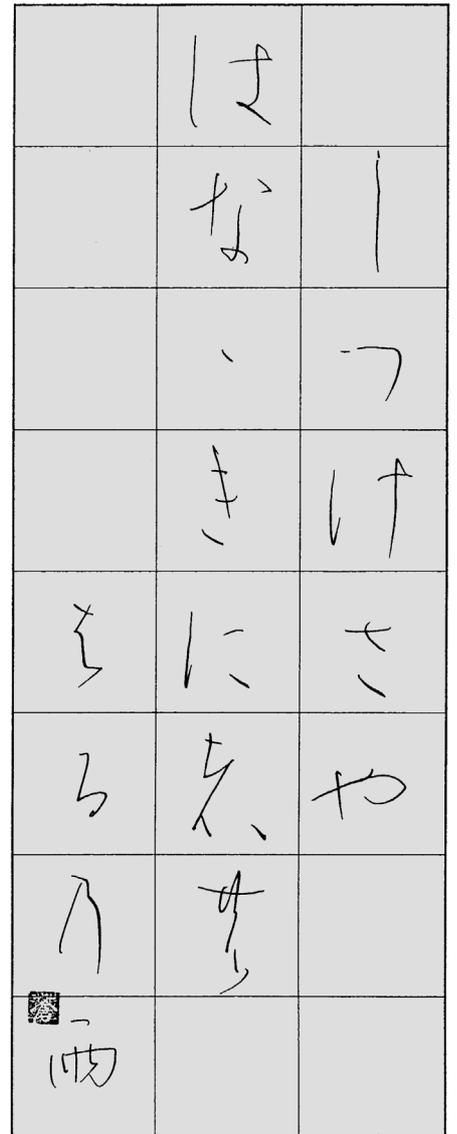
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



しづけ  
静さや花なき庭の春の雨



荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

しづけ  
静さや花なき庭の春の雨 (虚子)

〔句意〕花も散り果てた庭に春の雨が降り続けている。それをじっと眺め入って心静かに居る。

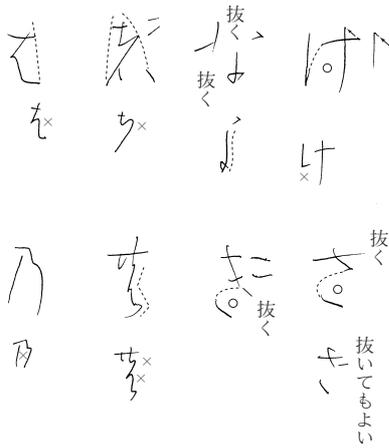
〔級位ワン・ヒント〕

マスの中に納める意識が少く全体像を考えたせいか大小がつきすぎました。練習は、「し」から「雨」までを書くのを何度も繰り返すのが常識的ですが、「し」なら「し」、「づ」なら「づ」の一つ文字を五十回でも六十回でも、速く時間を計りながら書いて線を鍛える方法もあります。次にゆっくり書いて深味や味の線を鍛えるという方法です。

〔段位ワン・ヒント〕

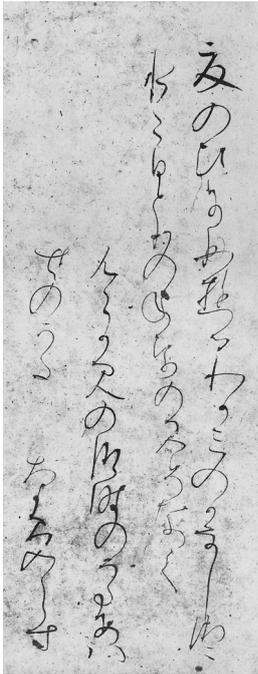
密にして凝縮感、単純な字はとくに密にして変化のある作品づくりをします。連綿線の長さも短、中、長があります。又遠まわしをして大きく弧を描いて次の字に入っていく方法もあります。放ち書きも同じ事です。見えない空間の動きも景色づくり、ムードづくりに必要なことと頭の隅に入れておいて下さい。

腕の違いは、書道では線だと思えます。それには、書きっぷりを見る事が一番だと思います。



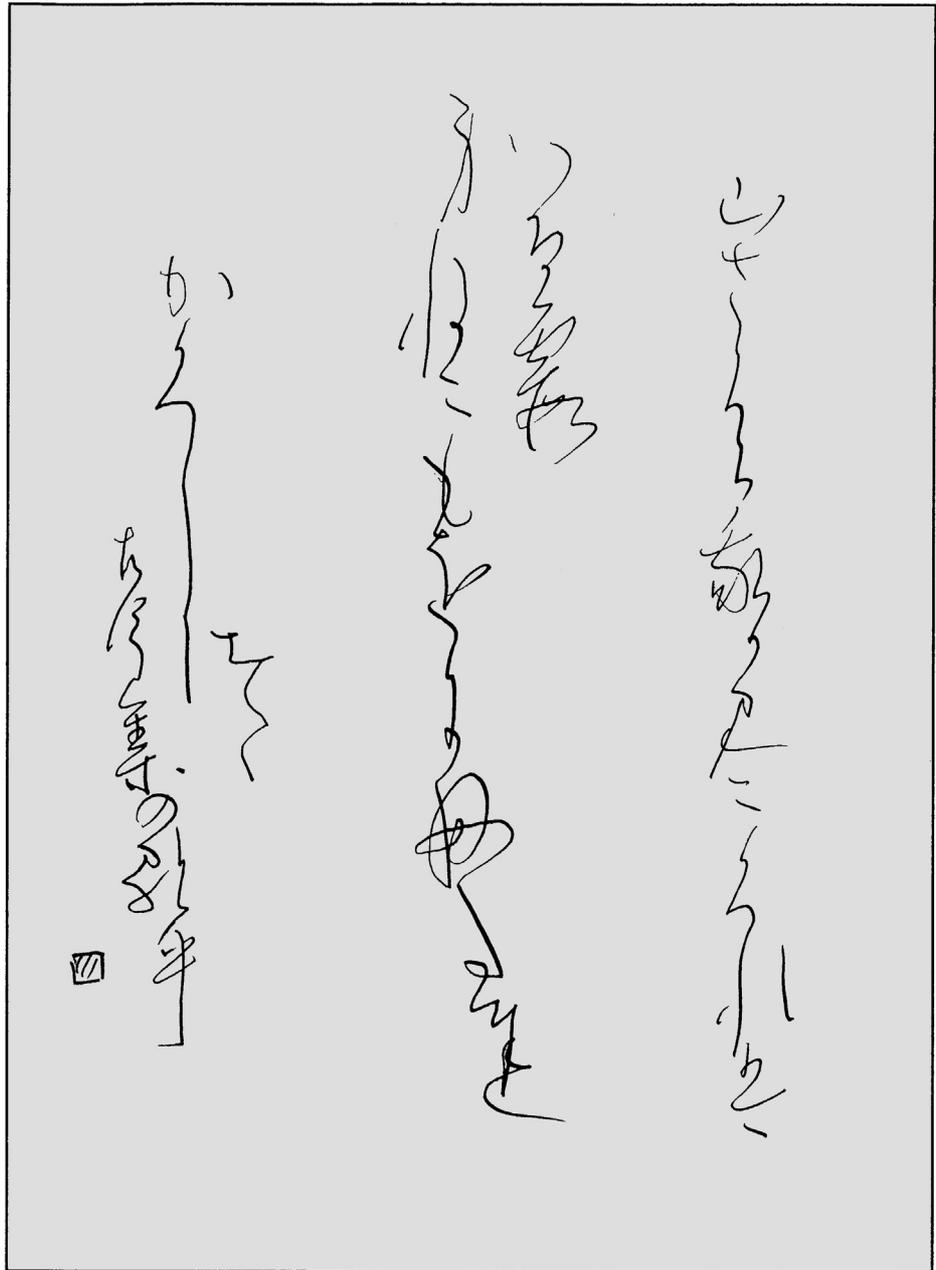
◆5月課題予告  
浅間嶺の麓まで下り五月雲 (虚子)

〔古筆参考〕



香紙切

夏ハのニひハにハもハゆるハわハがハみハのハかなハしハさハにハ  
 水ミこミひミどミりのミねミをミのミみミぞミなくミ  
 せセのセうセたセむムらムかカみカのカ御ミ時トキのトキうウたタあアはハ  
 夏ハのニひハにハもハゆるハわハがハみハのハかなハしハさハにハ  
 水ミこミひミどミりのミねミをミのミみミぞミなくミ  
 せセのセうセたセむムらムかカみカのカ御ミ時トキのトキうウたタあアはハ



締切り 四月二十四日(必着)

築瀬舟香書

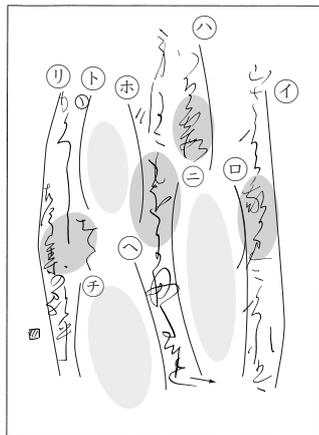
山ヤマざサくらクラ 我が見ミにニくクればハ 春霞ハルカスミ  
 みミねネにニもモ尾ビにニもモ 立タちチかカくクしシつツ

古今集の歌乎

〔歌意〕 私が山の桜を見にきたところ、  
 春霞が峰にも山裾にも、全山すっぽり  
 おしくんでたなびいているばかり。

〔出典〕 古今和歌集(新潮日本古典集成)

〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、①と⑦、①と⑧
- ②と③、③と④、④と⑤、⑤と⑥、⑥と⑦、⑦と⑧、⑧と⑨
- ⑩、それぞれ呼応。
- 余白を美しく。
- 密の動き大切。
- ⑪方向・位置注意。

香紙切の線(Ⅱ)

三月号で香紙切の線の特徴を列挙しましたが、そのような線はどのようにして生まれてくるのでしょうか。

香紙切のスピード感にあふれた弾力のある線は、運筆する時の転折にあるのです。転折する時の筆の突込みの如何によって弾力が生み出されます。穂先を突くことです。ペンだったらどのようなことになるのでしょうか。

◆5月課題予告

蓮葉ハスのハにニごゴりリにニしまシめメ心ココロもモて  
 なナにニかカはハ露ツキをヲ玉タマとトあアざサむムく

(僧止遍昭)

締切り 4月24日(必着)

私のそばを離れなかった末娘が、  
今ではバイバイと笑顔で幼稚園に  
行きます。嬉しいやら寂しいやら  
複雑な気持ちです。時間に余裕が  
できたので、これからは女だけの  
ランチタイムを楽しみましょう。

私のそばを離れなかった末娘が、  
今ではバイバイと笑顔で幼稚園に  
行きます。嬉しいやら寂しくやら  
複雑な気持ちです。時間に余裕が  
できたので、これからは女だけの  
ランチタイムを楽しみましょう。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん  
岡 嶋 桂 川 書

ホタルイカはイカの種類で、海岸  
近くに群遊し青白く発光します。

茨城県水戸市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 4月24日 (必着)



【出典】孔子廟堂碑（626～633） 【筆者】虞世南（558～638）  
 【読み】（参天）<sup>さんてん</sup> 兩地<sup>りょうち</sup>にして、廼<sup>なほ</sup>ち聖、廼<sup>なほ</sup>ち神、

準初段から師範まで

奥村暢之臨  
おくむら のぶゆき



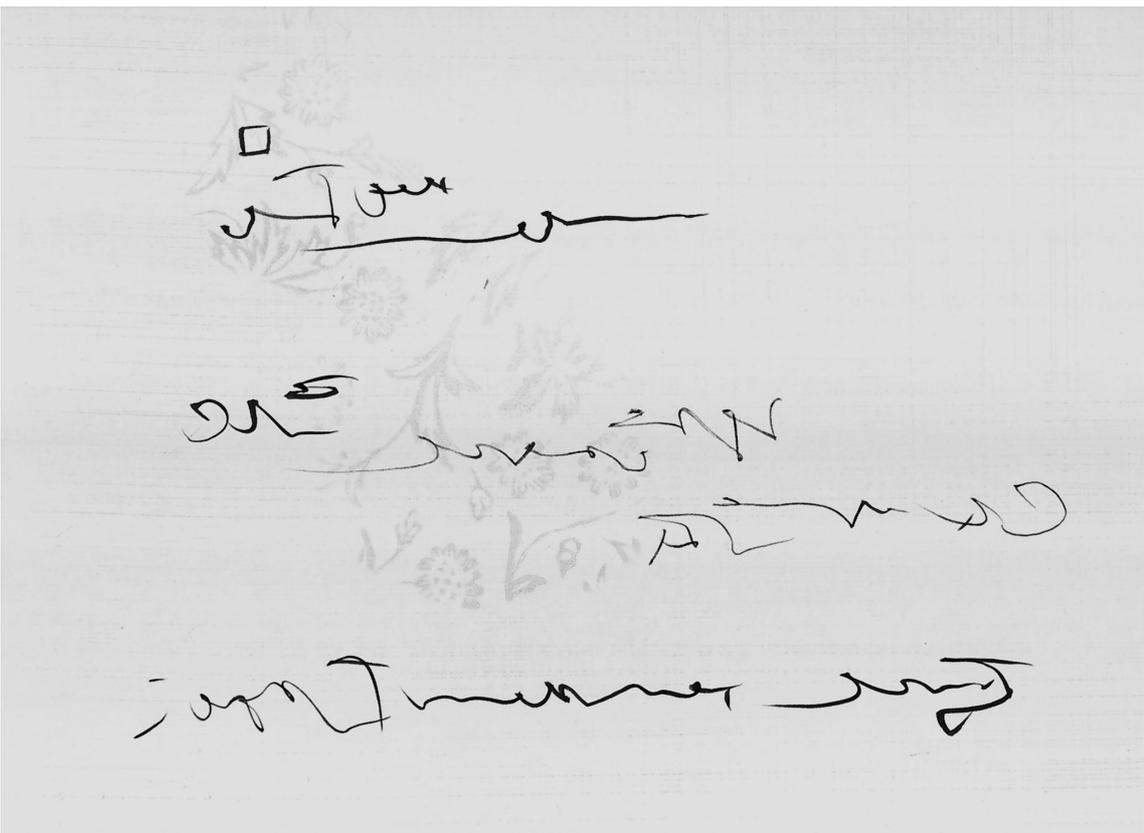
【読み】花は開く玉樓の春  
 【大意】玉樓のまわりに花が美しく咲きみだれているさま。

新入から1級まで（行書）

澤静雨書  
さわしずかみ

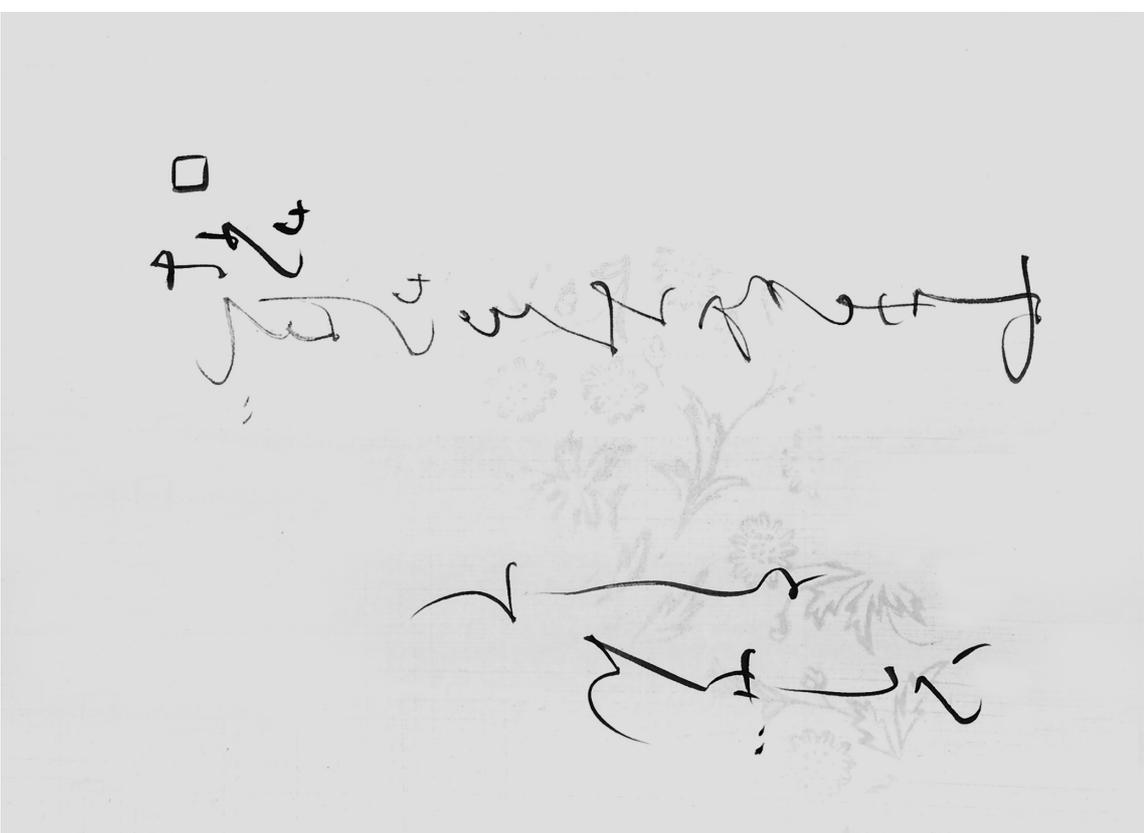
# 一般部毛筆かな課題

締切り 4月24日 (必着)



準初段から師範まで

いらせんとして山を見る蛙哉  
いらせんとして山を見る蛙哉



新入から1級まで

浅井機山先生書  
あきい けいざん せんせい しょ

〔出典〕 百人一首 (98) 従二位家隆

〔歌意〕 風がそよそよと檜の葉にふいている、このならの小川の夕暮れは、秋の訪れを感じさせるが、六月 萩のみそぎだけが、夏であることのしるしなのだ。

風そよぐばらの小川の夕暮れは  
かぜそよぐばらのこがわのゆふぐれは  
 みそぎぞ夏のしるしなりける  
みそぎぞなつのはるしなりける

〔出典〕 小林一茶

〔句意〕 陶淵明の詩「飲酒」の「採菊東籬下、悠然見南山」の名句をもじったもので、蛙を陶淵明に見立てたところがおかしみである。

締切り 四月二十四日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)

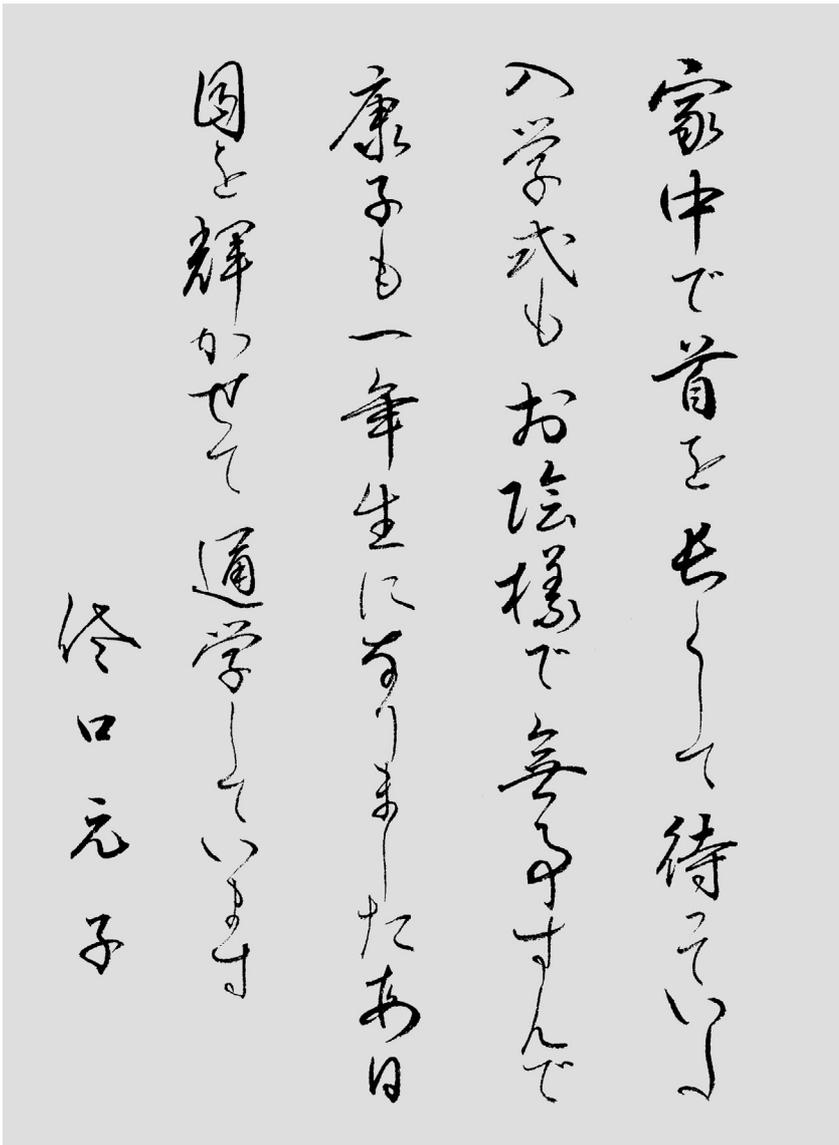


新井清泉書

〔大意〕林の鳥は月が上るまで鳴いて光はそこにみち、竹の中には花が散って春はもう末である。  
初出品の方へ  
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕創作への展開!!今月は字典を変えて、二女社の新書道字典から抜粋しました。編集者の方針で選ぶ文字も違ってきて、複数の字書を活用するとまた新しい発見があります。

邊邊鳥鳥  
語語語語  
裏裏裏裏  
飛飛飛飛  
深深深深



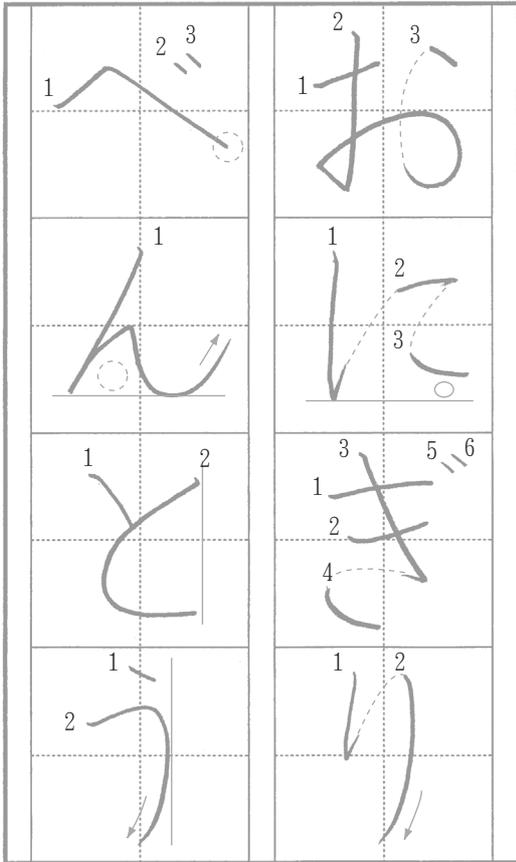
書 兆 春 宮 大

半紙 (334mm×240mm)

・印で墨つきしました。  
〔条幅・細字作品の出し方〕  
新入から師範まで、どなたでも出書できます。  
成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。  
書体変換、変体仮名の交換は自由です。

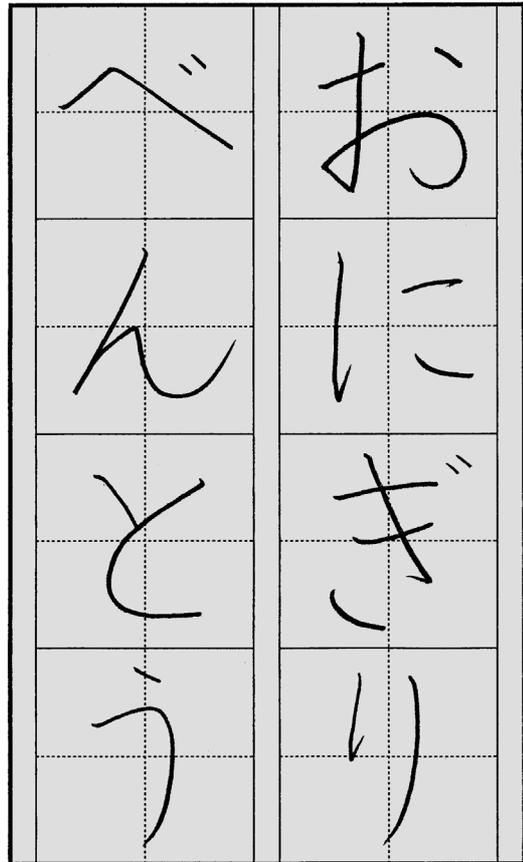
(ご自分の氏名)

〈ようぐく〉自由(黒色にかざる)



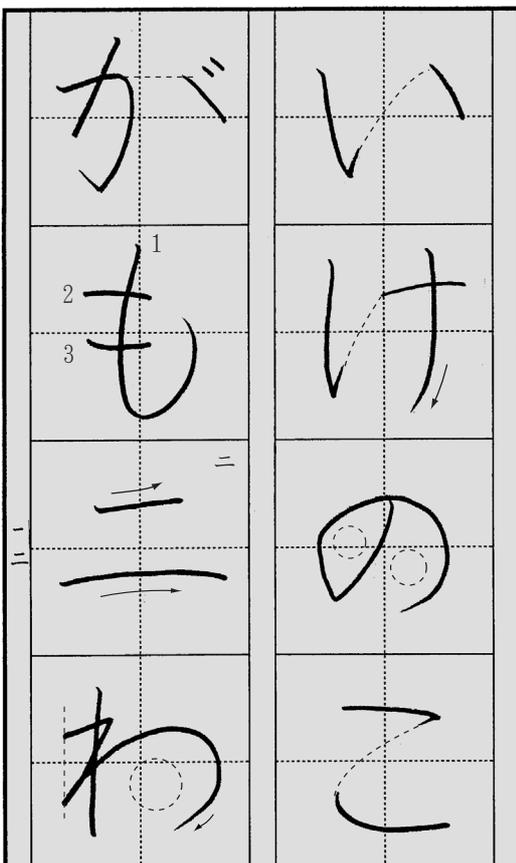
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ  
う  
年

幼年〜小三年  
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



新  
小  
一  
年

準初段以上

〈ようびく〉自由(黒色にかきえる)

モ	・一ノ広広 コウ	広
用	ヨウ	こ
紙	シ	く
に	長め	メ

新入1級

用	ら	広
紙	が	こ
に	わ	く
す	メ	の
る	モ	う

新小二年

準初段以上

中	・一ノ写写 チュウ	写
止	シ	生
で	ノハハハ会会 カイ	会
す		は

新入1級

で	が	写
中	ふ	生
止	つ	会
で	た	は
す	の	雨

新小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新小四年

準初段以上

ガク 学	ボク 牧
し	ジョウ 場
ま	を
す	ケン 見

新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書して下さい。

記

- \* 用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、いじけないよう、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- \* 六月締切り分までは、この方法を続けます。
- \* ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習をしましょう。
- \* 七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由(黒色に限る)

新小五年

(全員)

を	言	む
引	葉	ず
き	も	か
理	辞	し
解	書	い

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)

引	こと 言
理	ば 葉
解	ジ 辞
	シヨ 書

小四以上 尾郷翠光書

新小六年

整	捨	不
理	て	要
し	部	な
ま	屋	物
す	の	を

(全員)

※部屋(へや)＝単語としてこのように読みます。

解説(よく見て習いましょう)

部	不
屋	要
整	物
理	捨

自由(黒色に限る)

新中一年(行書)

の	生	私
出	は	た
身	北	ち
で	海	の
す	道	先

新中二・三年(行書)

歩	て	早
が	祖	起
習	父	き
慣	と	を
に	散	し

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

こどものひろば

幼年

い	た	ぴ	み
ぬ	て	ん	み
	た	と	を

新小三年

カ	大	南	雪
ラ	か	き	上
フ	つ	よ	車
ト	や	く	を
犬	く	で	引
	の	も	き

新小六年

祖	散	公	犬
父	歩	園	と
の	す	ま	い
日	る	で	っ
課	の		し
で	が		よ
す			に

新小一年

ふ	し	う	い
る	っ	れ	ぬ
よ	ぽ	し	は
	を	い	
		と	

新小四年

感	も	代	ご
心	う	わ	主
し	ど	り	人
ま	う	を	の
し	犬	す	目
た	に	る	の

新中一年 楷書

一	れ	小	コ
日	出	屋	リ
中	し	か	ー
番	て	ら	は
を	野	羊	朝
す	原	を	早
る	で	連	く

新小二年

や	手	ス	犬
く	ぬ	プ	の
も	ぐ	ー	し
す	い	ン	た
る	の	や	は

新小五年

立	多	人	犬
っ	く	間	は
て	の	に	む
来	面	愛	か
た	で	さ	し
	役	れ	か
	に		ら

新中二・三年 行書

必	生	肉	ビ
要	野	で	タ
は	菜	作	ミ
な	を	れ	ン
い	食	る	ン
	べ	犬	を
	る	は	体

▼今月は、席書大会開催に合わせて特別に席書課題をひろばの課題とします。本番に向けてサインペンで練習してみましよう。

▼4行用紙のない場合は、いつも通り5行用紙に書いても構いません。体裁よく収めてください。用具も自由です。

小二

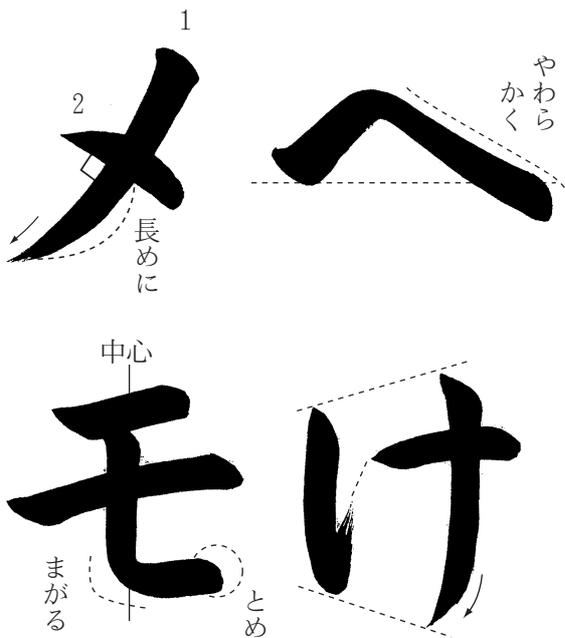
メ  
モ

幼年〜新小二年

玉樹小  
華書

せい  
い

へ



小二

い  
け

小五

辞書

小三

中止

中心

学  
辞書

中  
止  
見

小四

見学

新小三〜新小五年

水野の香竹書

横線の間そろえる

